

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校	【目指す学校像】	○楽しい学びの共同体
		【目指す児童・生徒像】	○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子
		【目指す教師像】	○当事者意識をもって学校づくりを行う教師 ○組織で考え、組織で動くことができる教師

領域	中期経営目標(3年間)	短期経営目標(1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的な学びの実現	教員一人一人が課題意識をもって主体的に取り組む校内研究を充実させ、授業力の向上を図る。	主体的な授業改善を図るために、学期ごとに行う授業観察でお互いに観望し合い、授業の振り返りを行う。	4   90%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。 3   85%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。 2   80%以上の教員が授業と公開に取り組んだ。 1   80%未満の教員が授業と公開に取り組んだ。		4   児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が95%以上 3   児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が90%以上 2   児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%以上 1   児童アンケート「学校の授業の内容が分かりやすい」が85%未満					
		学ぶことの楽しさを実感させる授業を積み重ね、主体的、対話的で深い学びによる学力向上を推進する。	GIGA端末やICTを活用した授業スタイルを確立し、児童自身に課題意識を持たせて対話的な学びを進める。個別最適な学習を展開している。	4   8割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。 3   7割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。 2   6割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。 1   6割以上の授業でICTを活用するなど、児童主体の個別最適な学習を実施した。		4   児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が90%以上肯定的 3   児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が80%以上肯定的 2   児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が70%以上肯定的 1   児童アンケート「タブレットが勉強の役に立っている」が30%以上否定的					
豊かな心	自分と共に他者を大切にできる態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成	児童の学力を把握し、実態に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	授業改善推進プランを活用したり、4次元の3観点評価を計画的に行ったりすることで、指導と評価の一体化を意識した授業を実践する。	4   90%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 3   85%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 2   80%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。 1   70%以上の教員が計画的に授業の評価に取り組んだ。		4   児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が90%以上 3   児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が80%以上 2   児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が70%以上 1   児童アンケート「授業に対して、すすんで取り組んでいる」が70%未満					
		自発的に挨拶をする態度を養い、挨拶が自然にこぼれ出るよう、挨拶を促す。	教員が範を示したり、児童会を中心とした挨拶運動に取り組ませたりして、挨拶指導の強化を図る。	4   全教職員が日常的に指導した。 3   90%以上の教員が日常的に指導した。 2   80%以上の教員が日常的に指導した。 1   80%未満の教員が日常的に指導した。		4   児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか」が90%以上 3   児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか」が85%以上 2   児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか」が80%以上 1   児童アンケート「自分や友達を大切にしていると思いますか」が80%未満					
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成	組織的な道徳教育の推進により、児童一人一人が自らを鍛え抜くことで、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。	道徳教育の体制作りや年間指導計画を見直し、道徳推進教員を中心に、道徳科の授業改善と道徳授業地区公開講座の実施を計画する。	4   90%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 3   85%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 2   80%以上の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。 1   80%未満の教員が授業後の振り返りと改善に取り組んだ。		4   児童アンケート「心は、どんな場面でもがんばっていると思いますか」が90%以上 3   児童アンケート「心は、どんな場面でもがんばっていると思いますか」が85%以上 2   児童アンケート「心は、どんな場面でもがんばっていると思いますか」が80%以上 1   児童アンケート「心は、どんな場面でもがんばっていると思いますか」が80%未満					
		心の安全を保障する指導体制を確立し、児童一人一人が安心して、過ごすことができる学校にする。	人権教育プログラムや心め総合計画に基づいた組織的な取組により、月に1回以上いじめ対策委員会を開く。また、年に3回以上いじめに関する授業を実施する。	4   全教員が3回以上いじめに関する授業を行った。 3   90%が3回以上いじめに関する授業を行った。 2   80%が3回以上いじめに関する授業を行った。 1   80%未満が3回以上いじめに関する授業を行った。		4   児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか」が90%以上 3   児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか」が80%以上 2   児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか」が80%以上 1   児童アンケート「学校で落ち着いて安心して生活できていますか」が80%未満					
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者と関わろうとする児童の育成	児童の実態に基づいた体力の課題を分析し、全校的取組により体力向上を目指す。	年度別の体力調査の結果分析から、筋持久力と走力、敏捷性に課題があることが分かった。敏捷性の向上をテーマにし、元氣アップガイドブックの運動内容を参考に、元氣アップタイムを実施する。	4   全校児童が参加した。 3   90%以上の児童が参加した。 2   80%以上の児童が参加した。 1   70%以上の児童が参加した。		4   体力テストの結果で4学年以上が敏捷性で都平均以上 3   体力テストの結果で3学年以上が敏捷性で都平均以上 2   体力テストの結果で2学年以上が敏捷性で都平均以上 1   体力テストの結果で2学年未満が敏捷性で都平均以上					
		児童と教職員が互恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。	安全教育プログラム等を活用した安全指導を日常化し、また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。	4   全学級で記録と振り返りを行った。 3   90%以上の学級で記録と振り返りを行った。 2   80%以上の学級で記録と振り返りを行った。 1   70%以上の学級で記録と振り返りを行った。		4   児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が95%以上 3   児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が90%以上 2   児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が85%以上 1   児童アンケート「これまでの自分の生活を振り返り、よりよくなると思う」が80%未満					
働き方	教職員の業務量の適正化と健康確保を図り、時間外在校等時間の縮減と勤務の質の向上を両立する持続可能な学校運営体制を確立する。	様々な集団活動に主体的・実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発見しながら自己実現を図ったり、より良い人間関係を形成したりできるようにする。	児童が自主的に活動できるように、特別活動 大人の10の役割を意識し、学級会を軸とした話し合い活動を充実させる。	4   全教員が話し合い活動を充実させた。 3   90%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 2   80%以上の教員が話し合い活動を充実させた。 1   70%以上の教員が話し合い活動を充実させた。		4   児童アンケート「話し合う時間」にすすんで参加している。が95%以上 3   児童アンケート「話し合う時間」にすすんで参加している。が90%以上 2   児童アンケート「話し合う時間」にすすんで参加している。が80%以上 1   児童アンケート「話し合う時間」にすすんで参加している。が90%未満					
		児童と教職員が互恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。	児童会や実行委員会活動を活性化し、児童が主体的に取り組めるメニュー及びアートフェスティバル、周年行事の計画を立て、実施する。	4   90%以上の児童が楽しく参加した。 3   80%以上の児童が楽しく参加した。 2   70%以上の児童が楽しく参加した。 1   60%以上の児童が楽しく参加した。		4   児童アンケート「行事の満足度」が90%以上 3   児童アンケート「行事の満足度」が80%以上 2   児童アンケート「行事の満足度」が70%以上 1   児童アンケート「行事の満足度」が60%未満					
改革	教職員の業務量の適正化と健康確保を図り、時間外在校等時間の縮減と勤務の質の向上を両立する持続可能な学校運営体制を確立する。	体系的な学習を意図的に計画し、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。	ゲストティーチャーや出前授業等、人間的な体験的活動を計画的に実施する。また、コミュニティスクールの利点を生かし、地域の学習材を各学年で活用する。	4   全学年が体験的活動を実施した。 3   5つの学年が体験的活動を実施した。 2   4つの学年が体験的活動を実施した。 1   3つの学年が体験的活動を実施した。		4   児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が98%以上 3   児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が95%以上 2   児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%以上 1   児童アンケート「学校の授業は分かりやすい」が90%未満					
		児童と教職員が互恵を出し、工夫した学校行事を生み出し、児童に達成感や連帯感、自己有用感をもたせる。	安全教育プログラム等を活用した安全指導を日常化し、また、事前に十分指導した上で、予告なしの避難訓練を毎月実施する。	4   定時退勤日の教員実施率が80%以上。 3   定時退勤日の教員実施率が65%以上。 2   定時退勤日の教員実施率が50%以上。 1   定時退勤日の教員実施率が50%以下。		4   時間外在校等時間(月平均)が4月と比べて-5時間以上。 3   時間外在校等時間(月平均)が4月と比べて短縮。 2   時間外在校等時間(月平均)が4月と比べて変化なし。 1   時間外在校等時間(月平均)が4月と比べて増加。					